



第2回 市民主催シンポジウム開催

—「由比ガ浜から未来の鎌倉を考える」

市民が主導するまちづくりの新たな動き—

鎌倉市由比ガ浜西自治会／THINK KAMAKURA は、9月28日に「由比ガ浜から未来の鎌倉を考える」と題した第2回市民主催シンポジウムを開催しました。

鎌倉市民や専門家など約100名が参加し、由比ガ浜4丁目の土地開発問題をきっかけに、鎌倉のまちづくりのあり方を多角的に議論しました。

【背景】

当初、開発事業者である大和地所レジデンス株式会社とNTT都市開発株式会社も出席予定でしたが、直前に不参加となりました。主催者は「市民・行政・事業者の三者が対話する場が失われたことは残念」とコメントし、経緯の説明と謝意を述べました。

松尾鎌倉市長からはメッセージが寄せられ、都市マスタープラン見直しの進展やオーバーツーリズムへの課題認識が示されるとともに、「住民協定に関する個人情報誤公開問題」への謝罪もありました。

【第1部：開発経緯と鎌倉のまちづくりをめぐる講演】

由比ガ浜西自治会会長／THINK KAMAKURA 事務局長・兵藤沙羅氏から、2014年に始まった由比ガ浜4丁目の開発計画の変遷が報告されました。

大型商業施設からマンション開発へと形を変えた経緯や、手続き上の不備、条例違反の指摘など、行政と事業者の対応に対する問題提起がなされました。

続いて、鎌倉在住の清田氏が「鎌倉の歴史とまちづくり」をテーマに講演。鎌倉の地形や歴史の変遷、防災・交通政策の課題、そして「シビックプライド（地域への誇り）」の重要性を訴えました。

【第2部：市民による3つの代替案】

8-9月に行った住民ディスカッションを経てまとめられた3つの代替案が発表されました。



「公園化案」（西尾進也氏）

高齢化社会に対応した健康・防災・交流の拠点として公園整備を提案。

「スモール&ラグジュアリーホテル案」（鈴木惣太氏）

かつての「鎌倉海濱ホテル」を継承するスモールラグジュアリーホテル構想。地域経済への波及効果を重視。

「調和型マンション案」（渋谷由美氏）

建物の圧迫感を抑え、緑地と交流空間を設けた分散型設計。地域住民との共生を目指す。

鈴木氏は「時間軸と空間軸の視点から、健康・経済・景観の3方向で、『集う、憩う、誇れる由比ガ浜』らしく、地域に利益をもたらす可能性を探りたい」と総括しました。

【第3部：会場からの声】

事業者不参加のため、市民による自由討論が行われました。

発言では「何もしないことこそ価値」「開発より保存を」「外部と地元の交流を」など多様な意見が交わされ、共通して“鎌倉らしさをどう次代に引き継ぐか”という問いが浮かび上がりました。

最後に主催者は、「市民の声を市・事業者に届け、三者協議の実現を求めていく」と締めくくりました。

シンポジウム概要

タイトル：「由比ガ浜から未来の鎌倉を考える」第2回 市民主催シンポジウム

日時：2025年9月28日（日）9:30～11:45（開場 9:15）

会場：鎌倉生涯学習センター 大ホール

参加費：無料・予約不要

主催：由比ガ浜西自治会／THINK KAMAKURA

【本件についての問い合わせ先】

由比ガ浜西自治会／THINK KAMAKURA

E-mail: [hinkkamakura.org@gmail.com]

※報道関係者向け資料、写真データ提供可